

平成27年度 学校自己評価システムシート（県立久喜特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒の社会的自立の力を育む学校
--------	-------------------

重点目標	1 支援プランに基づく授業の充実と児童生徒が達成感を得られる授業づくりを進める。 2 社会的自立に向けて、一人一人のニーズに応じた指導を進めるため、教育課程の改善を進める。 3 共生社会の実現に向け、教職員の専門性を生かした組織的な地域支援を進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価									学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					中間評価 (10月1日現在)	年度評価 (1 2 月 2 2 日 現在)			実施日	平成28年2月8日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	進行状況の整理等	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	・児童生徒の適切な実態把握に基づいた支援プランを作成し、指導に努めている。平成28年度に「障害者差別解消法」が施行される。障害特性の理解とそれに応じた質の高い支援等を行う必要がある。あわせて、教職員の専門性のさらなる向上も強く求められている。	教育支援プランにそった授業実現と専門性の向上	①児童生徒の個々の実態を踏まえた教育支援プランの作成と、指導のために学校と家庭とが十分な連携を図る。 ②児童生徒個々の「良いところ、できる力」を伸ばしながら授業実践を行う。 ③教職員の専門性の向上に向け研修を実施する。 ④学校行事等の準備や児童生徒への指導を計画的かつ効率的に行う。	①児童生徒の個々の実態を踏まえた、教育支援プランの作成に努めたか。 ②一人一人の児童生徒に、達成感や成就感を味合わせる授業実践ができたか。 ③計画的に研修会等を実施し、教職員の専門性の向上が図られたか。 ④学校行事等の準備や児童生徒への指導を計画的かつ効率的に行えたか。	①各学部が個別面談を実施、支援プラン作成を行った。 ②③研究部や自立活動部が学部研修を進め、夏季休業中に校内研修も行った。 ④各学部が概ね計画通り実施している。	今年度も児童生徒のより良い授業の実施に向け、取り組んできた。①②保護者アンケートでは今年度も児童生徒の実態を踏まえた支援プランに基づく指導には昨年並みの高い評価(97%)を得ることができた。③教職員の専門性向上のために年8回の全体研修、年9回の学部研修会を行った。また職員の校外研修参加率は昨年の4倍と専門性向上に教職員の意欲向上が見られた。④校外行事も予定どおり事故なく円滑に実施した。	A	今年度の取り組みを継続しながら、障害特性の理解と質の高い教育活動のために教職員の専門性を向上させ、地域や保護者から信頼される学校づくりを目指す。そのために会議や校務の効率化を行い、教材研究や児童生徒対応の時間を確保する。	・児童生徒個々の実態を踏まえた教育支援プラン作成と指導実践はよく出来ている。児童生徒個々の実態幅が広がっている状況を考えると、指導の難しさがありながらも学校や教職員の努力は評価できる。 ・保護者が抱える様々な疑問などを聞ける場がもっとあると良いと思う。この学校評価を児童生徒の教育環境の改善や向上に役立ててもらいたい。	
2	・継続的に、高等部の生徒の障害の実態と教育的ニーズが多様化している。今年度から高等部において、教育課程を改善し、授業数を増加する。作業学習については、生徒の障害に応じた作業班を増設し、指導を実施する。今後も、障害の状態とニーズに応じた教育課程の検討を継続的に行う必要がある。	生徒のニーズに応じた高等部教育課程の実現	①高等部における週2日の授業数増加を円滑に実施する。 ②高等部の作業学習において、障害の状態に応じた作業班を増設し、適切な学習活動を組み立てていく。 ③高等部授業数増加に伴うスクールバス「時差運行」を円滑に実施する。 ④障害の状態とニーズに応じた教育課程の編成を継続的に検討する。 ⑤運動会実施時期の変更に伴い、他の学校行事の実施日等の検討・検証を行う。	①高等部における週2日の授業数増加を円滑に実施できたか。 ②作業学習において、障害の状態にあった学習活動が実施できたか。 ③スクールバスの「時差運行」を円滑に実施できたか。 ④障害の状態とニーズに応じた教育課程の編成について、高等部や教育課程検討委員会を中心として、学校全体で検討に取り組めたか。 ⑤学校行事の実施日等、検討・検証できたか。	①③保護者や他学部の協力もあり、時差下校も順調である。 ②今年度新設した作業班が実態に応じた作業学習に取り組んでいる。 ④校内で共通理解を行い、今後保護者会で説明予定。 ⑤年度末検証する。	特に高等部においては、①③今年度より高等部の週2日の授業数増による時差運行の実施に当たっては混乱やトラブル等なく円滑に実施した。②新たな作業班も実態に合わせたペースや支援で年度末の販売会を目標に取り組んでいる。④保護者や昨年の学校関係者評価でも指摘のあった生徒の実態に合った指導の充実に向けて、今年度教育課程委員会と高等部が検討を重ね、高等部教育課程の来年度編成について改善を行い、学部の保護者会で説明を行った。⑤今年度の学校行事の定着と実施の効率化に向け、各学部や担当部署で年度末に検証していく。	B	今年度取り組んだ高等部教育課程の定着と円滑な実施、それに伴う小中高等部の系統的な教育活動の実践に向け、現行の各学部での教育活動の検証を行う。保護者や関係者の理解や協力のもと児童生徒のニーズに応じた適切な進路指導への理解と啓発を行う。そのためにわかりやすい取り組みと丁寧な情報提供を行う。	・高等部の実態に応じた教育課程の編成は週2日の授業時数増の実施、そして今年度の教育課程の複数化に向けた取り組みも具体的に動いていると評価できる。今後も継続して実態に応じたより良い教育課程を検討することは継続していただきたい。 ・教育課程や授業改善は保護者や地域への十分な説明と理解が必要である。学校としてできることとできないことの明確化も必要ではないか。 ・学校としてもっと頒布など地域との交流を積極的に行っていただきたい。	
3	・学区内の学校等の困り感に応じた特別支援教育コーディネーターによる支援の成果があらわれている。引き続き、センター的機能を十分に果たし、共生社会の実現に向けた支援や情報発信等を行う。	共生社会の実現に向けた地域支援の充実	①学区内の学校や地域への支援においては、相手校への支援の成果を把握しながら、より効果的な支援を実施する。②児童生徒のニーズに応えた支援学習を実施するとともに、交流学習の事前学習なども継続的に実施する。 ③地域人材(ボランティア等)の活用を行う。	①相手校との相互的な情報交換等を行い、より効果的な支援が実施できたか。 ②支援学習や交流学習を通じた出前授業等で、障害者理解に結びつける地域支援が実施できたか。 ③地域人材(ボランティア等)の活用ができたか。	①②コーディネーターを中心に学区内支援を行い、支援学習8名、学校間交流も各学部実施した。 ③地域連携部が中心となり特に小中学部でのボランティアの協力を得ることができた。	学区内の小中学校等に対する相談・支援事業の延べ件数は111件(12/22現在)と昨年度より1割増加した。①②交流学習では事前指導や交流委員会も含め各学部が複数回実施し特別支援教育の理解促進に繋がっている。③学校支援ボランティア等地域人材の積極的な支援によって学校行事等円滑に実施出来た。学校だよりやホームページの更新は昨年の5倍以上の積極的な情報発信を行うことができた。	A	今後も共生社会実現に向け、継続的な巡回相談やさらなる交流学習に取り組む。またボランティア人材確保の有効的な方策の検討と各学部のニーズに応じたボランティア支援を検討していく。	学区内支援の充実は今後も重要になってくる。特に未就学児童へのサポートや高等学校での発達障害関係の支援要請が多く、本校のセンター的機能への期待は大きい。進路先の確保や関係づくりもますます重要で、さらなる地域へのセンター的機能の充実が望まれる。	

